2. ハッカソン・アイデアソン

2.1 ハッカソンとは

　ハッカソン（hackathon）とは、開発するという意味のハック（Hack）と沢山の人達が集まって長距離を走るイベントのマラソン（Marathon）の2つの用語の組合せから作られた造語です。その名が示す通り、プログラマやデザイナーなどの沢山の開発者達が集まってアプリケーションの開発を行うイベントを表す用語となっています。

　現在までに様々な団体が様々なテーマでハッカソンを開催しています。実施規模も、数人による趣味の集まりでの勉強会の流れから実施する小規模なハッカソンから、大企業や団体が高額な優勝賞金を出して世界規模で実施するハッカソンまで様々なものがあります。

　実施時間も様々で、1日～2日程度で終わらせる短いものから一週間以上泊まり込みで行うもの、1か月かけて断続的に集まって行う長いものまであります。

　通常、開発するもの（テーマ）がハッカソンの主催者から明示されます。たとえば「XXX言語に限定したアプリ開発」や「モバイルアプリの開発」といった比較的広範なテーマのものから、「XXXというAPIを使ったアプリ」などといった限定的なテーマまで様々です。

　一般にハッカソンでは開発者達が複数のチームに分かれて開発を行います。テーマに沿ったアプリケーションのアイデアをチームごとに考えて、与えられた時間内に設計やデザイン、プログラム開発を行います。そして最後にチームごとに開発したアプリケーションについてのデモンストレーションおよびプレゼンテーションを行います。デモとプレゼンの結果として、主催団体からの評価や参加者全員などの投票などによってチームの順位を決めます。

　実施方法は様々ですが、基本的に「実際に動作するものを開発する」ところまでをイベントとして行う点がハッカソンの特徴と言えるでしょう。

　現在、日本でも様々な場所・団体・規模・テーマでハッカソンが開催されています。FacebookやTwitterなどのSNSや、イベント告知のサービスで開催が告知されていることがありますので、ぜひこまめに確認をしてみてください。

イベント告知のサービス（例）

　・イベントアテンド <http://atnd.org>

　・ATND(BETA) <http://atnd.org/beta>

　・Zussar <http://www.zusaar.com/>

2.2 ハッカソンの実施手順

　説明したとおりハッカソンの実施方法や目的は様々です。よって実施手順の決まったものがあるわけではありません。ここではみなさんがハッカソンに参加するにあたって必要となる、知っておくべき「当日の流れ」の一例を確認しておきましょう。

当日の流れ（例）

　(1)テーマに関するプレゼンテーション

　　　主催者や後援団体による「開発テーマに関する技術説明」が行われます。

　(2)チーム分け

　　　5～6人程度のチームに分かれます。技術レベルなどを測ってチームが組まれる

　　　こともありますが、参加者が座ったテーブルごとにチームが組まれることが多い

　　　です。

　(3)開発

　　　チームごとに設計・デザイン・コーディングなどを行います。

　　　開発の進行管理は各チームにまかされます。休憩や食事の時間についても一般的

　　　に主催者側から指示や規制されることはありません。

　(4)発表

　　　チームごと順番に、開発したアプリケーションのデモンストレーションと開発に

　　　あたっての独自アイデアなどをメンバー全員でプレゼンテーションします。

　(5)順位決定

　　　主催者側からの評価もしくは参加者全員による多数決などによって優勝チーム

　　　等を決めます。

すべてがこの通り実施されるわけではありません。またハッカソン終了後に懇親会などが開かれることも多いです。

ハッカソンについて説明しているWebページ

　・Hackathon in a Box（Google Developer Relations Japan）

<https://sites.google.com/site/devreljp/Home/hackathon-in-a-box>

2.3 アイデアソンとは

　アイデアソン（ideathon）とは、アイデア（idea）とマラソン（marathon）から作られた言葉です。ハッカソンと同じく、プログラマやデザイナーが集まってアプリケーション開発のアイデアを考えるイベントです。

　アイデアソンはそれ単体のイベントとしても実施されますが、通常はハッカソンの事前イベントもしくはハッカソンの中でのアイデア検討時間として実施されます。たとえばアイデアソンを半日～1日かけて行ってチームごとに開発するものを決定させ、そのアイデアソンを行った1日～1週間後にハッカソンを行うなどといった形で実施することがあります。

　アイデアソンも5～6人程度で1チームを作り、チーム内でアイデアを交換しあって、最後にプレゼンテーションを行います。

　アイデアソンはチーム内でアイデアを交換し合ってよりよい発想をするためのものですが、ただ単に突飛なアイデアを出してプレゼンテーションしてもらうことは求められていません。ハッカソンの前提として行うということを考えればわかるように「実際に開発できるアイデア」でなければなりません。

2.4 アイデアソンの実施手順

　アイデアソンのやりかたも団体やテーマ、規模によって様々ですが、ここではGoogleの開発者向けコミュニティのページで示されている進行手順例を示します。

アイデアソン運営ガイド（Google Developer Relations Japan）から抜粋

<https://sites.google.com/site/devreljp/Home/hackathon-in-a-box/ideathon-guiede>

|  |
| --- |
| **アイデアソンの準備**  ○チーム分け  チーム分けはハッカソン当日のチーム分けを参考としてください。  ○文房具配布  チームごとにブレインストーミングやアイデアのまとめに役立つ文房具な  どを配ります。Google のアイデアソンでは、ペン、付箋、スケッチブック、  模造紙を配布しています。  **アイデアソンの進行**  アイデアソンの流れを事前ミーティングのアジェンダに沿ってご紹介します。  ○19:50 - 20:00 アイデアソン の説明  ・モデレーターがアイデアソンの概要と流れを説明します。  ○20:00 - 20:05 2～3人でブレインストーミング  ・最初からチーム全体でブレインストーミングするのではなく、隣に座った  人と2 - 3 名でブレインストーミングを行います。  ○20:05 - 20:10 記入(アイデアをスケッチブックに記入)  ・ブレインストーミングで出たアイデアをまとめます。チーム内でプレゼン  するためにスケッチブックなどで簡単にまとめましょう。  ○20:10 - 20:25 チーム内ブラッシュアップ  ・チーム内で各自のブレインストーミングの結果を発表します。その後、チー  ム内でさらにアイデアを検討し、１つのアイデアにまとめます。  ○20:25 - 20:30 発表準備  ・発表のためにアイデアをまとめます。発表の方式は問いません。口頭だけ  でも良いです。  ○20:30 - 20:45 発表(チーム単位で発表)  ・発表の時間は １チームあたり、3分程度しかありません。しっかり要点を  伝えられるようにまとめましょう。  ○20:45 - 20:50 投票(優れたアイデアに投票)  ・優れた発表に投票する時間を設けます。投票を行うことを事前に告知する  ことにより、アイデアソンのモチベーションを上げることができます。 |

　先ほど述べたように、この後のハッカソンで実際にアプリケーションを開発するということを前提とした「実現可能性を考慮したアイデア」の発表を行ってください。つまり「どのような技術をどのように使えばどのようなことが実現できるか」まで考えてなければいけません。「アイデアまで昇華されていない単なる思い付きで、実現できる目途がないもの」を発表しないように気をつけましょう。

|  |
| --- |
| **【演習：アイデアソン(1)】**  Googleの実施手順に準拠したアイデアソンを試行してみましょう。  　■テーマおよび審査基準  　　※これは日経BP社が応募しているアイデア募集と同等のものです。  　　　（<http://multiscreencompetition.com/> 作品募集期間：～2013/1/16）  　 【テーマ】  　　複数の端末（マルチスクリーン）を活用したアプリケーションやサービス。ただし、  　　スマートフォンあるいはタブレットあるいはPCの利用は必須とします（3つのうち  　　1つは必須で使用）  　　具体的には、以下のアプリが審査対象となります  　　　・マルチスクリーン対応Webサービス  　　　・Androidアプリ（スマートフォンとタブレット）  　　　・Windows アプリ（PC）  　 【審査クライテリア（審査基準）】  　　・創造性：オリジナリティが高く、画期的か？  　　・実現可能性：技術的に実現可能かどうか？  　　・将来性：利用するユーザーの増加や機能の追加により発展性があるかどうか？  　　・デザイン性：UIや細部のデザインまで配慮されているか？  　　・エンターテインメント性：楽しさを与えるものか？  　　・ユニバーサル性：幅広いユーザー層を対象としているか？  　■チーム分け  　　5～6人で1チームを作ります。チーム編成方法は担当の先生に従ってください。  　■チーム作業実施（ブレインストーミング～発表準備）  　　50～80分で実施しましょう。これも先生の指示に従ってください。  　■発表  　　1チーム3分間でプレゼンを行っていただきます。  　■投票と講評  　　どのチームのアイデアが素晴らしかったか、全員による多数決で決めましょう。  　　最後に先生からの全体に関する講評（総評）を受けてください。 |